

磯之於尔	生流馬酔木乎	手折目杼	令視倍吉君之	在常不言尔	万葉集 卷二 166 大伯皇女
磯の上に	生ふる馬酔木を	手折らめど	見すべき君が	在りと言はなくに	
いそのうへに	おふるあしびを	たをらめど	みすべききみが	ありといはなくに	
岸のほとりに	生えている馬酔木を	手折っても	見せるはずのあなたが	生きているとは	
				誰も言ってくれない	
https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/					